田村一男記念展示室 2016年5月10日[火]~9月25日[日]

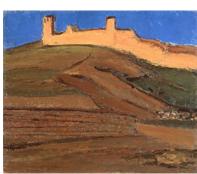
田村一男の眼差し -4-

田村一男(1904~97年)は、信州の山々に親しみ、日本の大地を愛した画家です。

20歳を過ぎて訪れた蓼科高原の雄大な景色に魅せられ、生涯を通じて日本の高原風景 を主題としてきました。とくに田村は、毎年のように信州を訪れ、信州の風景を題材 にした作品を数多く残しています。こうした高原風景には、田村が自身の肌で感じた 自然の厳しさと大地のぬくもりがそこはかとなく漂います。

今回の展示では、稜線を見つめる田村の目線の高さに注目しながら、70年余りにわた る田村の画業をご紹介します。大地と空とを分ける一本の線を画面のどこに引いたの か。その線からはじまる、田村の描いた世界をご覧ください。











上段左から)《黄金の雷光》1978年、《冬原》1984年、《丘》1962年 下段左から)《アッシジの城壁》1954年、《蓼科高原》1996年